

# 法人企業景気予測調査結果 (令和5年7～9月期調査)

## 【山口県の概要】

| 目次            | ページ |
|---------------|-----|
| 調査要領 .....    | 1   |
| 1. 景況判断 ..... | 2   |
| 2. 企業収益 ..... | 4   |
| 3. 設備投資 ..... | 6   |
| 4. 雇用 .....   | 7   |
| 参考資料 .....    | 8   |

令和5年9月13日  
財務省中国財務局  
山口財務事務所



ざいちゅう

本調査についての問い合わせ先：  
財務省中国財務局山口財務事務所  
財務課長 石田  
TEL: (083) 922 - 2190 (代)  
HP: [https://lfb.mof.go.jp/chugoku/yamaguchi/  
chousatoukei/keiki/keikiyosokutop.htm](https://lfb.mof.go.jp/chugoku/yamaguchi/chousatoukei/keiki/keikiyosokutop.htm)



調査結果は、こちらからも  
確認できます。

## [ 調査要領 ]

### 1. 調査の目的と根拠

企業活動の現状と見直しに対する企業経営者の判断を調査し、地域経済情勢を的確に把握するとともに、財政・経済政策運営上の基礎資料を得ることを目的に、統計法に基づく一般統計調査として実施。

### 2. 調査実施時点

令和 5 年 8 月 15 日

### 3. 調査対象企業

資本金、出資金または基金(以下、「資本金」という。)1 千万円以上(電気・ガス・水道業及び金融業、保険業は 1 億円以上)の県内所在法人

### 4. 調査対象期間(時点)

- (1) 判断調査 …………… 令和 5 年 7 月から 9 月(または 9 月末)の現状(見込み)  
令和 5 年 10 月から 12 月(または 12 月末)の見直し  
令和 6 年 1 月から 3 月(または 3 月末)の見直し
- (2) 計数調査 …………… 令和 4 年度の実績、令和 5 年度の実績見込み

### 5. 調査対象企業数及び回答状況

| 区 分   | 業 種 別 |         | 規 模 別  |         |         | 合 計   |
|-------|-------|---------|--------|---------|---------|-------|
|       | 製 造 業 | 非 製 造 業 | 大 企 業  | 中 堅 企 業 | 中 小 企 業 |       |
| 対象企業数 | 47 社  | 66 社    | 25 社   | 23 社    | 65 社    | 113 社 |
| 回答企業数 | 46 社  | 61 社    | 25 社   | 21 社    | 61 社    | 107 社 |
| 回答率   | 97.9% | 92.4%   | 100.0% | 91.3%   | 93.8%   | 94.7% |

- (注)・大企業：資本金 10 億円以上  
・中堅企業：資本金 1 億円以上 10 億円未満  
・中小企業：資本金 1 千万円以上 1 億円未満

### 6. 集計方法

判断調査項目、計数調査項目とも単純集計。

### 7. グラフの見方

- (1) 棒グラフは、回答企業数の構成比または金額の増減率を表す。  
(2) 折れ線グラフは、BSI(ビジネス・サーベイ・インデックス)を表す。

(参考)

BSI は、前期と比較した「上昇」または「下降」等の変化方向別の回答社数の構成比から、先行きの経済動向を予測する方法。

- (例) 前期と比べて 「上昇」と回答した企業の構成比・・・40.0%  
「不変」と回答した企業の構成比・・・25.0%  
「下降」と回答した企業の構成比・・・30.0%  
「不明」と回答した企業の構成比・・・ 5.0%

景況判断 BSI=(「上昇」40.0%)-(「下降」30.0%)=10.0%ポイント(「上昇」超)

- (3) 点線の折れ線グラフは、前回調査時(令和 5 年 4 月から 6 月期)の予測を指す。

# 1. 景況判断

## ○ 現状判断

- ・ 現状(令和5年7月から9月期)の景況判断BSIは▲3.7%ポイントと「下降」超となっている。
- ・ 業種別にみると、製造業は▲13.0%ポイントと「下降」超幅が拡大し、非製造業は3.3%ポイントと「上昇」超幅が拡大している。規模別にみると、大企業は12.0%ポイントと「上昇」超幅が縮小し、中堅企業は▲4.8%ポイントと「下降」超に転じ、中小企業は▲9.8%ポイントと「下降」超幅が縮小している。

## ○ 先行き見通し

- ・ 翌期(令和5年10月から12月期)は「上昇」超に転じる見通しとなっている。
- ・ 業種別にみると、製造業は「上昇」超に転じ、非製造業は「上昇」超幅を維持する見通しとなっている。規模別にみると、大企業は「上昇」超幅が縮小し、中堅企業、中小企業は「上昇」超に転じる見通しとなっている。
- ・ 翌々期(令和6年1月から3月期)は「下降」超に転じる見通しとなっている。

景況判断BSIの推移 (原数値)

(BSI: 前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

(%ポイント)

| 区 分   |         | 前回(5/4-6)調査時予測 |          | 今 回 調 査 |        |         |       |
|-------|---------|----------------|----------|---------|--------|---------|-------|
|       |         |                |          | 5/7-9   |        | 5/10-12 | 6/1-3 |
|       |         | 現状判断           | 5/7-9見通し | 現状判断    | 変化幅    | 見通し     | 見通し   |
| 全 産 業 |         | 0.0            | ▲ 0.9    | ▲ 3.7   | ▲ 3.7  | 6.5     | ▲ 6.5 |
| 業 種   | 製 造 業   | ▲ 2.1          | ▲ 8.3    | ▲ 13.0  | ▲ 10.9 | 10.9    | ▲ 8.7 |
|       | 非 製 造 業 | 1.7            | 5.0      | 3.3     | + 1.6  | 3.3     | ▲ 4.9 |
| 規 模   | 大 企 業   | 20.8           | ▲ 4.2    | 12.0    | ▲ 8.8  | 8.0     | ▲ 4.0 |
|       | 中 堅 企 業 | 19.0           | 4.8      | ▲ 4.8   | ▲ 23.8 | 9.5     | 0.0   |
|       | 中 小 企 業 | ▲ 14.3         | ▲ 1.6    | ▲ 9.8   | + 4.5  | 4.9     | ▲ 9.8 |

(参考) 寄与の大きい業種

|      |    | 業種名   |
|------|----|-------|
| 製造業  | 上昇 | 化学    |
|      |    | 窯業・土石 |
|      | 下降 | 金属製品  |
|      |    | 食料品   |
| 非製造業 | 上昇 | 建設    |
|      |    | 不動産   |
|      | 下降 | 小売    |
|      |    | 医療・教育 |

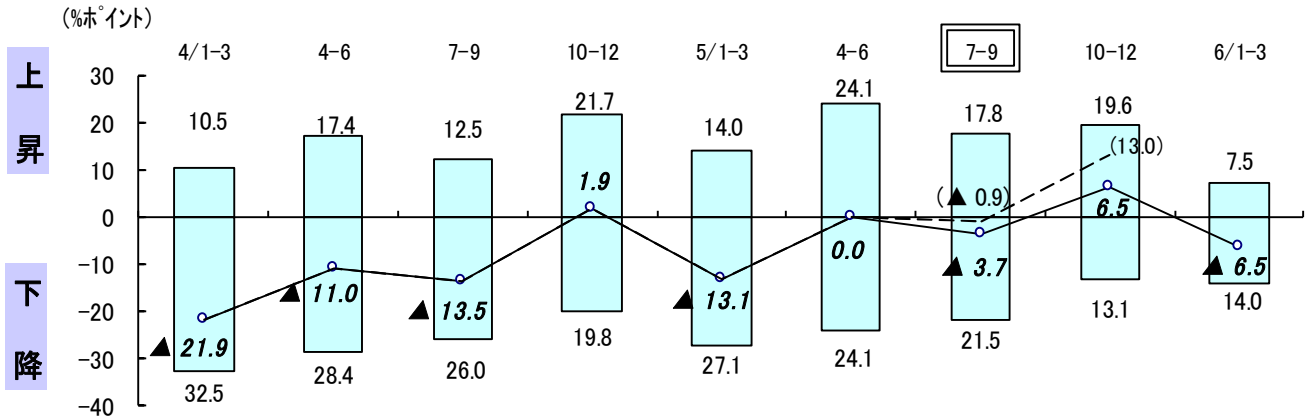
景況判断BSIの推移（原数値）

（BSI：前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比）

【全産業】

点線及び( )は前回[令和5年4月から6月期]調査時予測

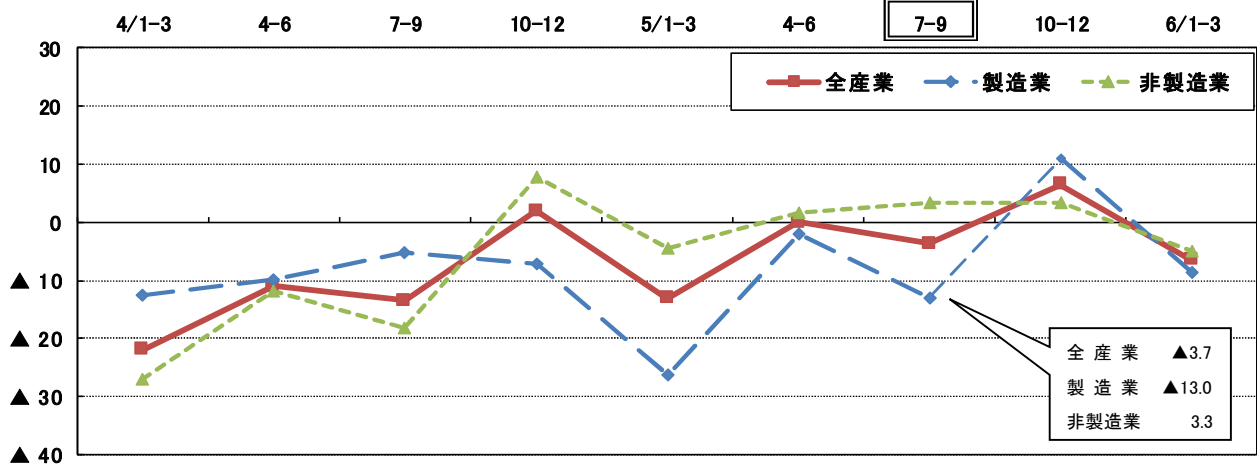
現状判断 ← | | → 見通し



(注) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、構成比の差を表す%ポイントとは表記した計数の差と一致しない場合がある。

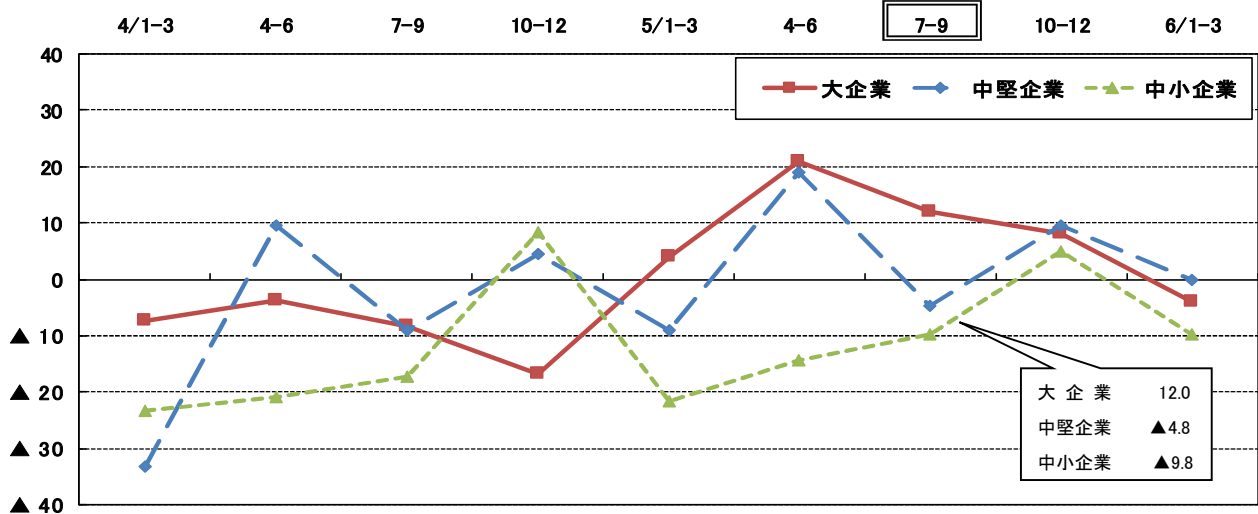
【業種別】

現状判断 ← | | → 見通し



【規模別】

現状判断 ← | | → 見通し



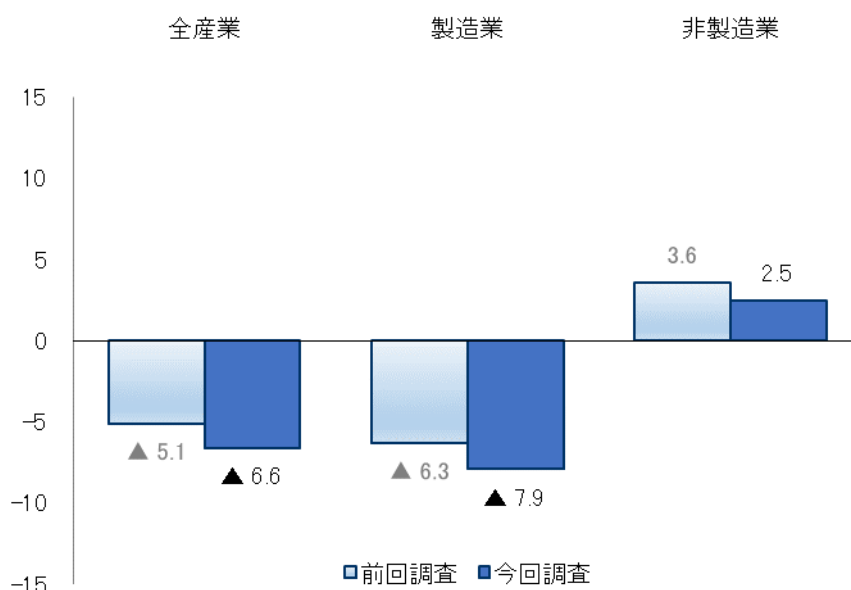
## 2. 企業収益

### (1) 売上高（回答企業数 80 社：電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く）

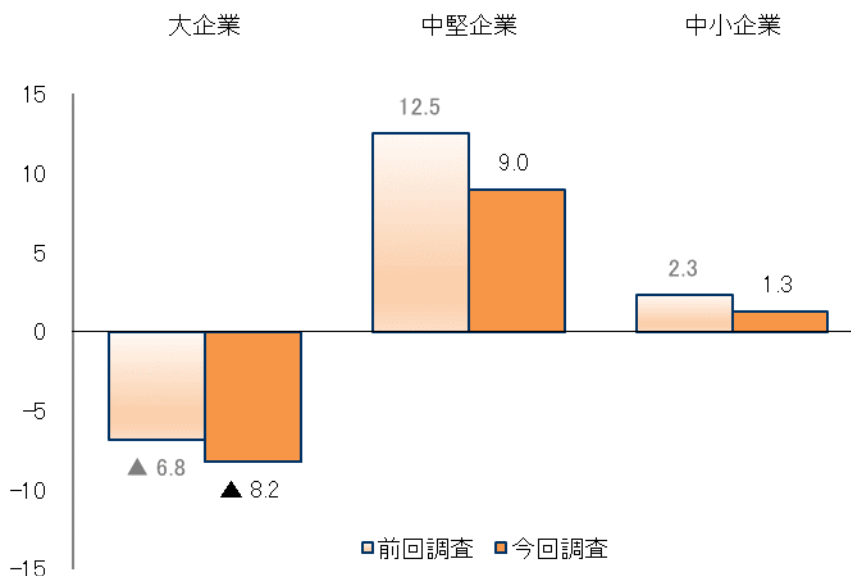
○ 令和 5 年度の売上高は、前年度比▲6.6%の減収見込みとなっている。

- 業種別にみると、製造業は、パルプ・紙等などで増収となるものの、石油・石炭、化学などで減収となることから、全体としては▲7.9%の減収見込みとなっている。非製造業は、医療・教育などで減収となるものの、小売、運輸・郵便などで増収となることから、全体としては 2.5%の増収見込みとなっている。

【全産業・業種別】（前年度比増減率）

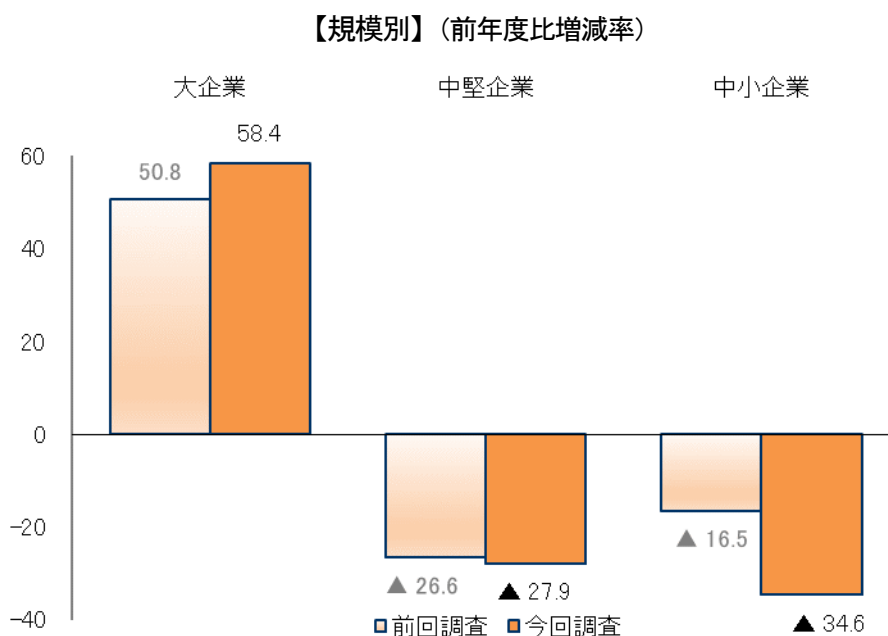
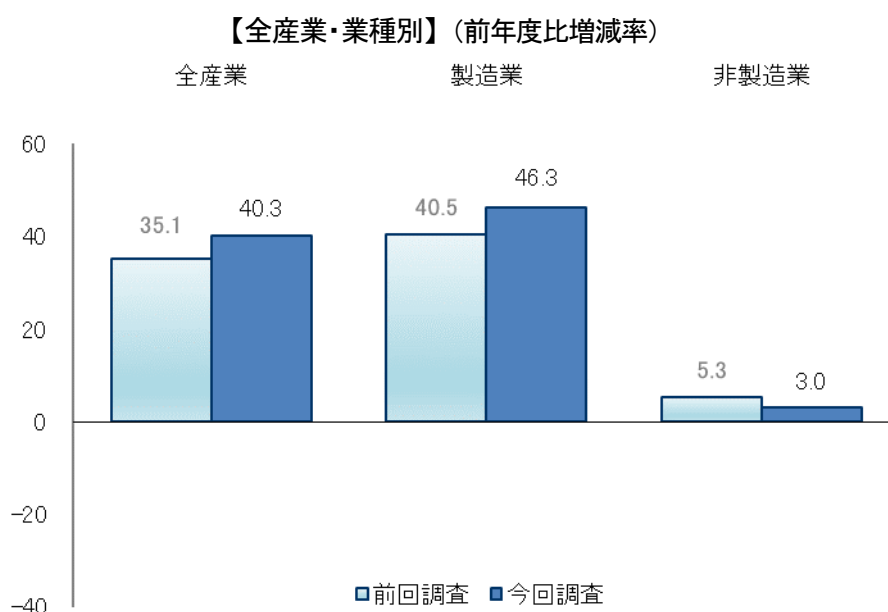


【規模別】（前年度比増減率）



## (2) 経常利益（回答企業数 80 社：電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く）

- 令和 5 年度の経常利益は、前年度比 40.3%の増益見込みとなっている。
  - ・ 業種別にみると、製造業は、情報通信機械などで減益となるものの、化学、パルプ・紙等などで増益となることから、全体としては 46.3%の増益見込みとなっている。非製造業は、運輸・郵便などで減益となるものの、情報通信、学術研究・専門・技術サービスなどで増益となることから、全体としては 3.0%の増益見込みとなっている。

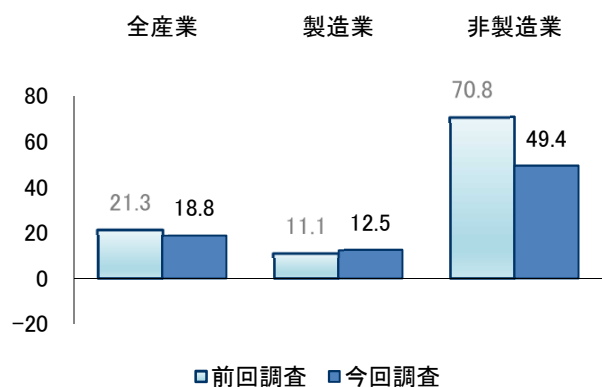


### 3. 設備投資（回答企業数87社：土地購入額を除く、ソフトウェア投資額を含む）

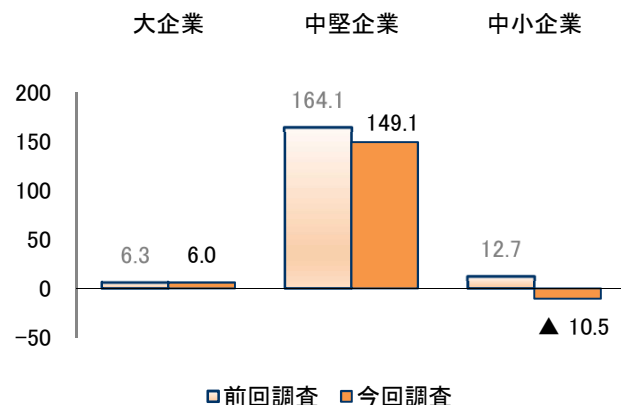
○ 令和5年度の設備投資計画は、前年度比18.8%の増加見込みとなっている。

・ 業種別にみると、製造業は、その他の輸送用機械などで減少するものの、電気機械、金属製品などで増加することから、全体としては12.5%の増加見込みとなっている。非製造業は、小売などで減少するものの、運輸・郵便、金融・保険などで増加することから、全体としては49.4%の増加見込みとなっている。規模別にみると、大企業(6.0%)、中堅企業(149.1%)は増加見込みとなっており、中小企業(▲10.5%)は減少見込みとなっている。

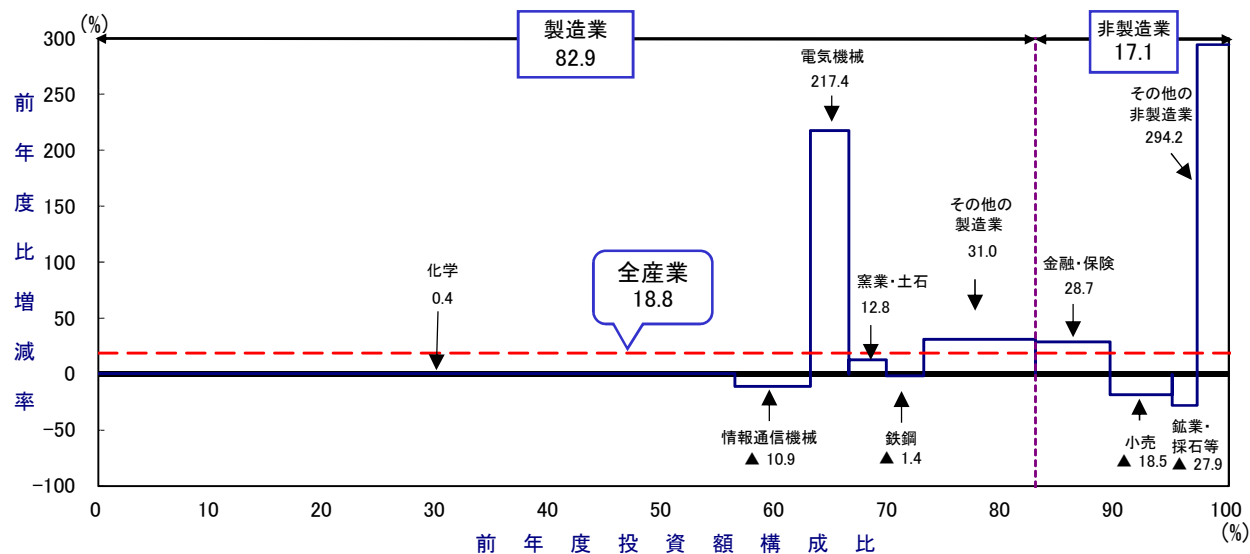
【全産業・業種別】(前年度比増減率)



【規模別】(前年度比増減率)



【主要業種別 設備投資状況(令和5年度)】



## 4. 雇用

### ○ 現状判断

- ・現状(令和5年9月末)の従業員数判断BSI(回答企業数102社)は30.4%ポイントと「不足気味」超となっており、前期(令和5年6月末)に比べ、「不足気味」超幅が拡大している。
- ・業種別にみると、製造業は13.6%ポイント、非製造業は43.1%ポイントといずれも「不足気味」超幅が拡大している。

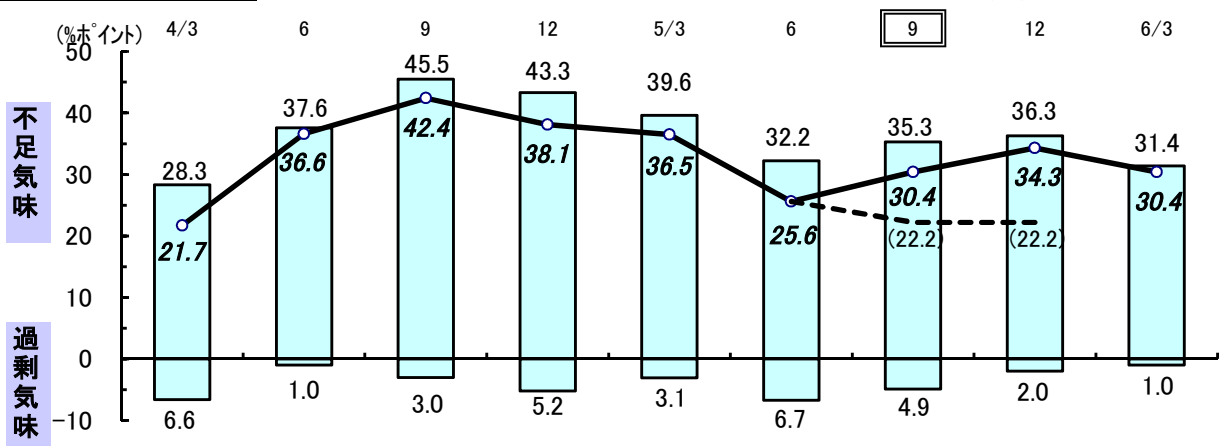
### ○ 先行き見通し

- ・翌期、翌々期は、ともに「不足気味」超の見通しとなっている。

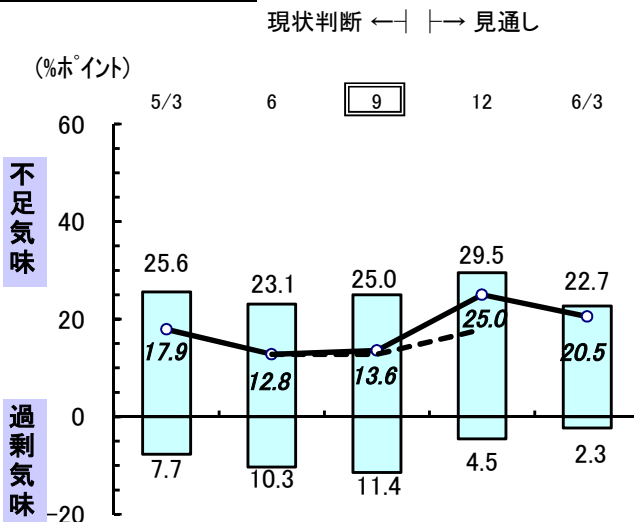
従業員数判断BSIの推移(臨時・パート含む)(原数値)

(BSI：期末判断「不足気味」-「過剰気味」社数構成比)  
点線及び( )は前回[令和5年4月から6月期]調査時予測

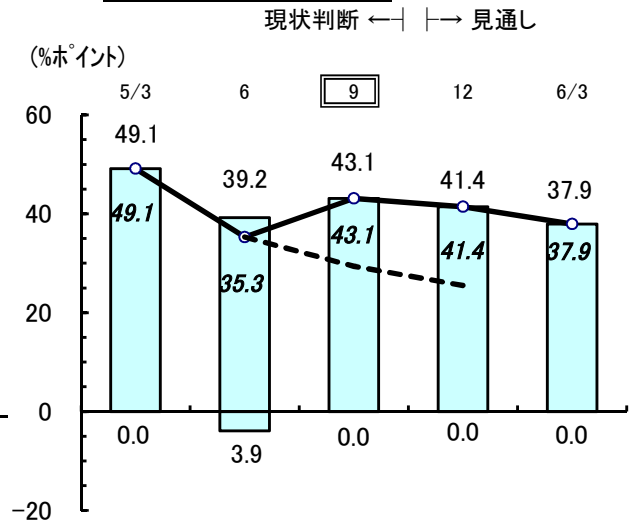
#### ・ 全産業(期末判断)



#### ・ 製造業(期末判断)



#### ・ 非製造業(期末判断)



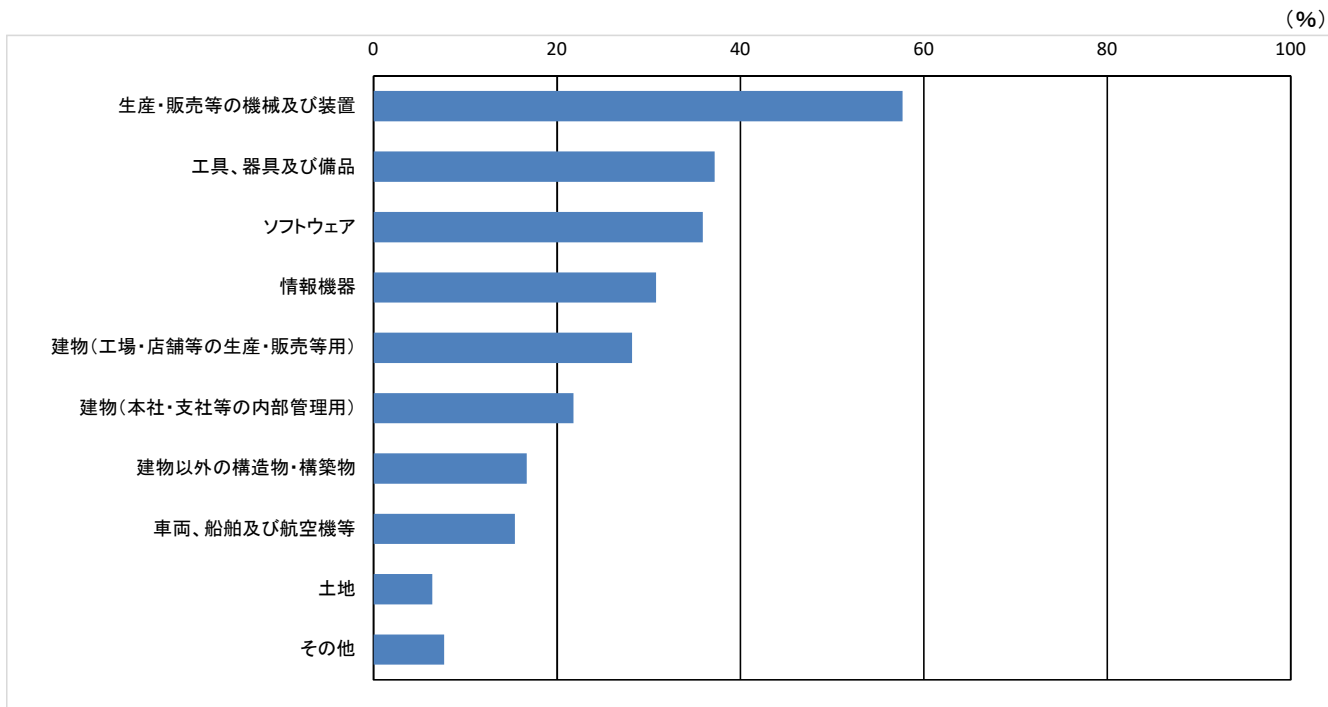
(注) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、構成比の差を表す%ポイントは表記した計数の差と一致しない場合がある。



〔参考資料〕

1. 今年度における設備投資の対象

※10 項目中3 項目以内の複数回答による回答した企業の構成比



2. 仕入価格や燃料価格の変動に対する取組

※10 項目中3 項目以内の複数回答による回答した企業の構成比

